

徹之は今、高2の学年末のテストの真っ最中です。学校が大好きで、クラスメートが大好きで、だから三年生になりたくて、一生懸命勉強しています。小中学校では退学や留年なんてなかったから、ノートもテストにしても、お気に入りの交通標識やトイレのマークびっしりで、自発的に勉強なんて考えられませんでした。高校はテストをきちんと受けないと、入学することも進級することも出来ないことを、自分で初めて経験したのです。高校が大好きだから、みんなと一緒に進級したくて、「今度のハードルもこえます。」と頑張って勉強しています。皆と一緒に素晴らしい環境を知ったおかげで、自発的に向上心が芽生えたようです。大雪の日も、大雨の日も、夜の学校を一日も休むことなく通っております。

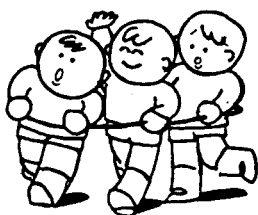
以前の文集に書きましたが、高校の入試に際しては、「障害児には養護学校がある。この子にとってその方が幸せのはず。親のエゴではありませんか。」と、何度となく拒否されてきたけれど、徹之の今のこの充実した日々をみていると、「最高の選択をした」と、胸をはっていえます。思えば、小学校時代から、入学時や転校時には必ず、「なぜ養護学校があるのにいかないの。」という質問を先生や父母の方々から頂戴した。その度に、親としての考えを話し、理解を（たとえ存在を許してもらうためですら、）してもらい、地域の学校に通い続けました。親として、進路を選択する時、迷いがなかったと言えば嘘になります。でも、徹之の人生は一度しかないのだから、親と同じように、地域の中で生きて、共に育ち、共に学び、悲しみも喜びも共有したいと思いました。おかげで、とても多くの人たちから働きかけられ、支えられて、ハプニングと感動の日々ですが、なにものにも代えがたい人生を送ることができて感謝しています。小2の転校時の初のクラス懇談会で、ある親の方から迷惑がられ、その時私がどのように対応したかは、ひまわりの会報に書いておりますが、そのような場面場面は今思い出して、「どのような場合でも逃げださないで、前向きに対応して良かったなあ」と思っております。「たたけよ、さらば開かれん」です。こういう子は第一印象はマイナス面ばかり強調されるようで、とても良いとは、誰も思ってはくれません。でもいつも一緒にいると、今度は良いところが見えてくるようです。もし、入園時や入学時に「おたくのお子さんはちょっと」と言われても諦めないでください。きっと後ではクラスでかけがえのない存在になりますよ。高校でも、「宝物のような感じがします」と言ってくださって、とても人気者のようです。

(3月5日記)

小学校卒業時の寄せ書きより、学校での様子をお知らせして、この様にまわりの印象は変わり得ることを知って、安心してください。

みんなのアイドル 徹ちゃんへ  
 いっも元気だった 徹さんへ  
 だから愛された 徹ちゃんへ  
 笑顔のふなかつた 徹さんへ  
 料理クラブ好きな 徹ちゃんへ  
 算数が得意だった 徹ちゃんへ  
 声かけもすみよかったです 徹さんへ  
 北川別小の星 徹さんへ

川場の空は灰色で、心は3色のバラ色で、いつまでもいつまでも輝いてください。



所属(陶芸)クラブの先生 5.6年時 (40才男)

卒業 おめでとう!

徹之君

隣の組の担任の先生 (25才女)

紙に向かいながら 頭の中には、テッチャンな表情、しくまがめくり、声が聞こえます。

二年間 出田先生とテッチャンのそばで、すごすごがまきました。今思ったのが、修学旅行のバスの中で聞かせてもらった、あのテッチャンの歌声で、歌うのが楽しくてたまらな様でした。はじめ聞いた歌声があまりにやさしく、やわらかく、すとおぼえて、忘れられません。

テッチャンがいると、人はやさしさを出さずにはいられなくなるようです。4組の友達とテッチャン、11月の時、手とり何の欲得も我もなく、その光景は暖かさのみがびびっていました。誰よりも愛されるテッチャン。少しづつ、少しづつ、大きくなります。空のように、海のように、広く、さわやかな人になって、ほしいと願っています。

明石さん、徹之君の御卒業、ほんとうにおめでとうございます。大変なご苦労でしたね。私にこれまで出会った中、友見の中で最も素晴らしい生き方を見せてください。様々なことと浮はせていたたきました。一：やろうと思えば、何だってできないことはいいということ(忙しいからちょっとなんて言い訳できない)あのバイアリティー、豊か女人間性、良妻賢母等、これも書ききれないほどあります。

今から先、これまでに以上の御苦労があるでしょうが、夫婦で互いに切り抜いていられることを信じています。

徹之の担任の先生 (50才女)

